

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース  
／太田 直也

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

1. 現代の文化を考え理解するにあたって必要不可欠な事項をとりあげてゆく。特に今年度は今なお教育現場で「主流」となっている多文化主義に力点を置いてゆく。
2. 英文学の授業では、昨年度に引き続き、詩の講読を通じて実践力向上を目指す。
3. 他大学では扱われることの少ない(全くない)特色のあるテーマを積極的に取り上げる。特にアイルランド共和国の文化と教育に力点を置く。
4. 授業への参加度、レポート等により総合的に評価するが、昨年度に引き続き、レポートに関しては、日本語表現に重きを置く。

## 2. 点検・評価

- ・多文化主義に関しては必要以上に時間をかけた。その結果、受講者からは非常にわかりやすかったとの評価を得ることができた。
- ・詩の講読は丁寧に行ったつもりである。その際に英語表現について、また英語教育にも有益であろうと思われる韻律についても詳細な説明を加えた。
- ・アイルランド共和国の文化と教育に関しては時間をかけ、受講者には好評を博した。
- ・日本語表現に関しては発表時、レポート提出時に細かな注意を与えた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

1. 学生の自主的な活動を支援し、必要に応じてアドバイスを与える。
2. いかなる場合にも学生の相談には誠意を持って応じる。
3. 形式的にオフィス・アワーを設定するが、常時研究室訪問を受け入れる。
4. 学生のサークル活動を可能な限り支援する。

## **2. 点検・評価**

・院生の自主ゼミには助言を与えた。  
・学生の相談には24時間体制で対応したつもりである。  
・サークル活動に関してはふれあいアクティビティと軽音楽部に関与した。前者の合宿、後者のコンサートには協力した。特に東日本大震災のチャリティーには積極的に参与した。

## **Ⅱ－2. 研究**

### **1. 目標・計画**

1. 現在行っている翻訳作業を終わらせることが出来れば、新たな翻訳に取り組む。
2. イギリス文化に関する書物に関与し、事情が許せば今年度中に出版に至りたい。
3. ウェールズにおける教育と文化についての調査、研究を継続する。

## **2. 点検・評価**

・翻訳に関しては作業を終えることができなかった。並行して別の翻訳に取り組んだためである。  
・『イギリス検定』(南雲堂フェニックス)、『ロンドンに関する60章』(明石書店)、『現代イギリス読本』(丸善)に原稿を書いた。内は今年度中に発行予定。  
・ウェールズにおける教育と文化についての調査、研究を継続し、一部は日本カムリ学会にて口頭発表した。

## **Ⅱ－3. 大学運営**

### **1. 目標・計画**

1. 各種委員会等、与えられた責務を遂行する。
2. 入学者確保のための個人的な広報活動を積極的に行う。

## **2. 点検・評価**

上記についてはいずれも可能な限り誠実に計画通り活動した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

在日外国人児童、在外日本人児童を抱える学校との交流を図りたい。

### 2. 点検・評価

・主として多くの外国籍児童を抱える学校への支援を試みた。特に東保見小学校、西保見小学校、石浜西小学校(いずれも愛知県)への訪問は有益であった。  
・St. Brigid's Primary Schoolとの交流は電子メールを通じてのものに留まったが、新たにTrinity Collegeとの交流を始めることができた。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)